



2年生話題提供授業 協議会記録

成果

◎児童の様子

- ・十分な運動量があり、夢中になってゲームに取り組もうとする姿が見られた。
- ・作戦ボードを上手に活用しながら、作戦を立てようとする姿が見られた。
- ・ボード裏の作戦や友達の作戦を参考にしながら、自分の動きに取り入れようとする姿が見られた。

◎教師の支援

- ・困っている児童やさらに上達できそうな児童への指導者の声かけが的確で、素晴らしかった。
- ・導入の場面で、動画を用いて前時の良い動きを取り上げることで、クラス全体に共有できた。
- ・主運動につながる動きをコンパクトながらも十分な内容で準備運動に取り入れていた。

課題&疑問

◎作戦ボードの活用について

- ・作戦ボードの活用の仕方に差が見られた。作戦ボードの置き方を指導したり、名前磁石の活用を取り入れたり、対抗戦として相手を意識させたりすることで、もっと自分事として作戦ボードに向き合おうとする児童が見られるのではないかな。

◎「運動遊び」を意識して

- ・学習の内容が攻め方(作戦)を意識しすぎるものになっていて、運動遊びから外れてしまい、負けても悔しそうでない児童も見られた。児童がその遊びに夢中になれるためには、そのゲームの機能的特性(楽しさ)に子供たちの目ももっと向くように心がけなければならない。

◎ルール工夫について

- ・一度も走れなかった児童がいた。全員が宝を取れたらボーナス得点など、ルールを工夫することを通して全員が楽しく参加できるとよい。

◎質問

- ・チームの決め方について
→走順→相性→おとなしいけど賢い子が各チームにいるように、という順番でチームを編成した。
☆なかなか勝てないチームがあったので、ほかの視点からチーム分けをしてもよかった。
- ・チームカードの活用について
→これまで使った作戦を残すという意図で用意したが、運動量の確保を考えて、今回はあまり活用することができなかった。

☆「勉強になった!」ポイント☆

<主運動につながる準備運動を考えたい>

今回の授業では、準備運動に主運動の「たからとりおに」につながる動きを取り入れていた。動き自体はともシンプルなものなのだが、非常に考えられた内容になっていたように感じた。講師の先生もお話されていたが、「急発進、急旋回、急停止」という鬼ごっこに必要な動きが網羅されていた。「準備運動は主運動につながる動きにしたい!」「いつも屈伸から始まる準備運動って…」と思いつつも、なかなか脱却できずにいたが、今回の授業を見て改めて準備運動の大切さに気付かされた。「主運動→準備運動」と思考できるように、今後も体育の授業研究を行っていきたい。

12月は5年生のタグラグビーの授業なので、今回学んだことを生かしよりよい体育の授業を考えていきたい。

☆運動遊びでは、遊びの視点を忘れずに！

今回であれば「ゲーム」遊びの要素を大切にしていく。運動遊びの授業で大切にしてほしいことは、技の獲得ではない。児童が楽しく遊びながら、その領域に必要な動きの獲得を目指すべき。先生は片方の目で児童の遊びのサポートをしながらも、もう片方の目につけさせたい力が身についているかどうかを冷静に判断する必要がある。学習のなかに遊びの要素をたくさん取り入れていくことが大切である。

☆児童をゲームに夢中にさせる！

児童がゲームに夢中になっているかは、勝敗に対する児童の姿で分かる。児童が単元を通してゲームに対して熱をもって取り組んでいくためには、「単元の中盤でゲームに慣れてきていないか」「チーム間の力の差はないか」「規則の工夫が必要か」等、単元を通して児童の姿を見取りながら、常に指導を見直す必要がある。

キラリと光る付箋

- ・(水色3) 今日は1点もとれなかったが、作戦はよく活用していた。
- ・(青5) 1年生の頃、勝負にこだわり逃げていた子が、宝を取られても抜かれても楽しそうに活動していて成長を感じた。
- ・何度も夢中になって宝を取りに行く姿が見られた。
- ・「作戦って何だろう？」という先生の発問が生きて、チームの話し合いにも生きていた。
- ・(緑) ホワイトボードを使うことで視覚化でき、話し合いも活性化された。
- ・ルール、作戦、流れ、得点など掲示物が充実している。かつ効果的。
- ・ルールが簡単で分かりやすくよかった。2分×2でも運動量は確保できた。
- ・動画で友達の動きを見る。「なるほど」と活動への意欲につながった。

安藤先生、話題提供授業ありがとうございました。場の工夫を行うため、学年でいろいろなパターンを想定して取り組みました。それが功を奏して、運動量の確保やゲーム性の向上につながりました。事後のアンケートでも、体育嫌いが0人になったことが分かりました。大きな成果だったのではないのでしょうか。

塩見先生からは、厳しいご指摘もありましたので、今後の参考にしながら、新たに取り組むをしていきたいですね。「先生は片方の目で児童の遊びのサポートをしながらも、もう片方の目につけさせたい力が身についているかどうかを冷静に判断する。」この言葉に、低学年の体育の真髄を感じました。しっかりそれを意識しながら指導に当たっていきたいと思いました。